

事業報告

<研修名>

令和元年度 第1回 大分県社会教育行政職員専門研修会

<開催日時>

令和元年9月20日(金) 10:00~16:10

<会場>

県立図書館 第2・3研修室

<参加人数>

27名(県:10名、市町村:17名)

<研修趣旨>

県下の生涯学習・社会教育のより一層の振興を目指し、事業遂行の中核的役割を果たす県及び市町村の社会教育行政職員を対象に、その資質・能力の向上を図る。

<研修内容>

【研修1】▼講演・演習「人生100年時代の社会教育へ～学びの場をデザインしよう～」

講師：コミュニケーションデザイナー / NPO 法人 福岡テンジン大学
学長 岩永 真一 氏

【研修2】▼演習 「人生100年時代の社会教育へ～学びの場をデザインしよう～」

講師：コミュニケーションデザイナー / NPO 法人 福岡テンジン大学
学長 岩永 真一 氏

ファシリテーションは会議などを進めるだけではなく、企画立案からリフレクションまで、「場のデザインのスキル」「対人関係スキル」「構造化のスキル」「合意形成のスキル」を積み上げながら、最終的には参加者の主体性を引き出すような決定を促すことを目的として行う、ということを取り組みやすいワークショップや講師が取り組んでいる事例紹介等とおして、参加者にわかりやすく伝え、考えてもらうことができました。また、企画の方法等、事業に即取り入れられる内容も多く、参加者が熱心に取り組む様子が見られました。

<当日の様子(写真)>

【開会行事】開会挨拶

県立図書館 館長 塩川 也寸志



【研修1】▼講演「人生100年時代の社会教育へ」

NPO法人 福岡テンジン大学 学長 岩永 真一 氏



【研修2】▼演習



<参加者感想>

- 自分のスキルアップにつながるものとなった。
- 講師の目線が高くなく、人を引き付ける何かを講師が持たれている。
- 今日は先生だけでなく、グループワークを通じて、仕事に対する新しい意見や視点も見えたし、とても勉強になった。これからは苦手だからと避けて、場数を踏んで取り組みたい。
- 社会教育で何を指すのか、今一度関わる人たちで確認し直す必要があると思った。
- 「社会教育」とは？というところから始まり、「場」のデザインの仕方、必要性を学んだ。実際、自分で作っていくには、まだまだ勉強が必要かな？と思った。